



たむらいもの
田んぼの生き物

たむらいもの
田村で会える生き物たち
たむら生

たむらいものずかん
生き物図鑑



さんりんいもの
山林の生き物

昆虫先生ことムネリンが、田村で会える生き物たちを紹介いたします！



昆虫先生
ムネリン



ゲンゴロウ

見た目が卵形で、後ろ脚がフィンのような形状から泳ぎがとてもうまい。ただ、かわいらしい見た目に反して、肉食で死んだ魚や昆虫に群がる。最近、里地や里山環境の減少や農薬の影響で数を減らしている。

カブトムシ

日本で最も有名な昆虫の一つで、大きな角が特徴だ。夏に現れるが、他のクワガタ同様暑さが苦手であり、昼間は根元に隠れ、涼しい夜に活動を始める。幼虫は腐葉土を食べ、成虫はクヌギやコナラの樹液を食べる。



なかまが
たくさんいるカブ！



ミズカマキリ

見た目はカマキリに似ているが、カメムシの仲間である。泳いで獲物を捕まえるコオイムシとは異なり、水底や水草で待ち伏せし、小魚や小さな昆虫が目に来るのを待つ。鎌のような前脚で獲物を挟み、体液を吸う。



ギンヤンマ

頭部と胸部が緑色のトンボで、腹部の色はオスが水色、メスが緑色だ。トンボの仲間では最速で飛べるが、逆に急停止やホバリングもできる。高い飛行能力で空中の昆虫を脚で、すぐに捕まえて食べる。



アカハライモリ

両生類の仲間であり、日本だけに生息する固有種である。名前の通りお腹が赤く、これは天敵の鳥に襲われた際にそれを見せ、自分が危険であることをアピールするためである。フグがもつ毒「テトロドトキシン」を体に持つ。



コオイムシ

名前の由来は、メスがオスの背中に卵を産み、自身の卵を守ってもらうことである。採集時、オスは背中に卵がある状態で見つかりやすい。水中で泳いで小さな昆虫を前脚で挟んで体液を吸う。



ガムシ

見た目はゲンゴロウに似ているが、脚の形状で見分けられる。本種は水草を食べる。胸部から腹部へ針のような突起部が一本伸びており、それが牙に見えることから「牙虫」と名付けられている。



ノコギリクワガタ

ミヤマクワガタと異なり温暖な広葉樹林に生息する。体長が大きくなるほど大あごが湾曲し、内歯がのこぎり状であることが特徴だ。樹液や街灯の下を探索、または広葉樹を蹴ると死んだふりをして落ちてくる。



オオミズアオ

田村市では夏に現れる、100mm以上にもなるヤママユガの仲間だ。特徴は緑色を帯びた白く美しい翅だ。本種の仲間の成虫は口がないため長く生きられず、幼虫の時に蓄えたエネルギーで飛ぶ。夜間に街灯周辺等の光に集まる。



オオムラサキ

日本の国蝶で準絶滅危惧種に指定されている大型のチョウだ。性別で翅の色が異なり、特にオスは名前通り鮮やかな紫色の翅が特徴である。幼虫はエノキの葉だけ食べるが、成虫はクヌギやコナラ等の雑木林で樹液を吸う。



ルリボシカミキリ

名前の通り鮮やかな青色と黒色の体色が最大の特徴だが、標本になると色が褪せてしまい失われてしまう。広葉樹の雑木林に生息し、特にブナ・グルミ科の枯死した樹木に産卵のために集まる。



ミヤマクワガタ

山林等の涼しい雑木林にいるクワガタムシだ。大きな特徴はオスの頭部に「耳状突起」と呼ばれる冠状の突起があり、これは幼虫の頃に低温環境にいるほど発達しやすい。体毛が生えており、その姿は黄金色に輝いて見える。